

T 小学校（特別支援学級）

【学校の概要】

T 小学校は、昭和9年に開校した学校で、学年1学級、特別支援学級4学級の小規模な学校である。平成26年度よりICTを活用した教育活動推進校に指定され、今年度は「児童が意欲をもって学習に取り組み、学力を向上させるための指導法の工夫～ICT機器を活用して～」をテーマに研究に取り組んでいる。

【特徴的な点に関するまとめ】

ICT機器の整備に関しては、各教室にプロジェクタ、ホワイトボード（スクリーン）ノート型コンピュータが設置されている。また、通常の学級には一人一台のタブレット型コンピュータが整備されており、校内LANを使ってインターネット接続も可能である。

特別支援学級には2人に一台iPadが整備されており、また、それらを活用した授業も日常的に行われている。ICT活用については「誰もが使える、誰もが作れる」をコンセプトに実践を行っている。

【特徴的な事例】

（1）児童生徒が参加する授業

①教科名等 国語「せつめいのしかたに 気をつけて読もう」(2年生の単元)

②授業の目標等

授業の目標は以下の通りである。中心となるのは二重丸の目標である。

◎「順序を考えて教材文を読み、説明の仕方について考えることができる。」

○「言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気づくことができる。」

（2）児童生徒の実態

①学年 3、4年生 12名

②指導の場 特別支援学級（知的障害）での合同授業

③児童生徒の障害および課題（特性・ニーズ）

個別の支援が必要な児童から、全体指示で活動ができる児童まで幅広い。語彙力に課題があり、伝えたいことがあってもうまく表現することが難しいが、臆することなく意見を発表する姿がみられた。気づいたことを整理して伝えることができるように、また、人の意見を聞く間は待つことができるように、日頃スピーチや授業中の発表等で学習を重ねている。

（3）ICT活用について

①使用した支援機器・教材の名称 デジタル教科書、実物投影機、iPad

②活用のねらい

- デジタル教科書：伝えたいポイントを拡大したり、説明文と写真を対比させたりすることで、児童の学習意欲を高める。また、焦点となる部分を拡大したり、写真や図を拡大して強調したりすることで、課題についての理解を図る。
- 実物投影機：説明文に示された作業を体験させる過程で、作業工程を理解させるために、実物と実技を拡大して見せることで、理解を促すとともに、自ら取り組もうとする意欲を高める。
- iPad：個々の学習課題について、実態に応じたアプリケーションを活用し、能力の向上を目指す。

③授業における支援内容

授業の導入部分で、学習課題を共通理解させるために、デジタル教科書を使い大きな写真を見せて「何をしている動作か」を確認していた（課題の焦点化）（図 4-3-12、13）また、展開部分では、発表者の児童にデジタル教科書にラインを引かせることで、自分や友達の考えを確認させていた（学習内容の共有化）

個別の学習課題については、アプリケーションを使用し「自ら学ぶ」姿勢を身につけるよう支援していた。

④ ICT 活用による児童生徒の変容や評価

しかけカードの作り方に興味をもち、どのように書かれているかを整理しようとしていた。また、授業の中で、手順や事項の順序などに気づいて読んでいたり、写真と文を照合させながら、読んでいたりした。このような授業の中で、順序を表す言葉や順序を表す表現の意味について理解をしていた。

（金森克浩、梅田真理）

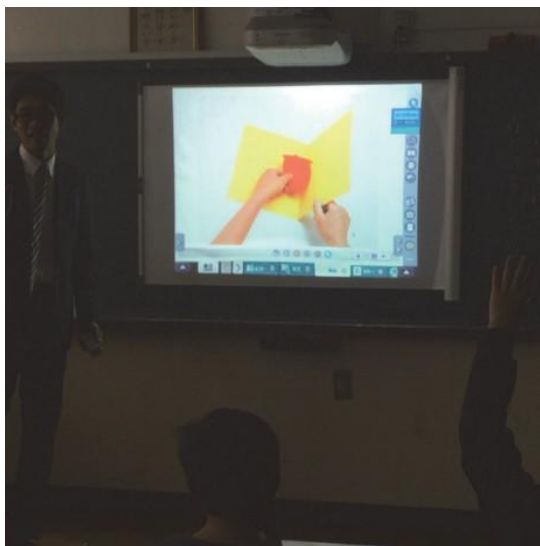


図 4-3-12 実技を拡大して映写



図 4-3-13 実技を再生して確認

※ 本事例（特別支援教育教材ポータルサイト掲載事例）は、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所「C-94 障害のある児童生徒のための ICT 活用に関する総合的な研究－学習上の支援機器等教材の活用事例の収集と整理－」（平成 28 年 3 月）、114 -115 に記載された内容である。